

環境報告書 2022

報告対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

CONTENTS

—目次—

TOP MESSAGE	1
[大学概要]	
東京外国語大学のミッション	2
学生数	2
教職員数	2
建物一覧	2
教育研究組織	3
運営組織	3
[環境パフォーマンス]	
過去5年におけるエネルギー使用量	4
過去5年における温室効果ガス排出量	5
過去5年における水道使用量	5
過去5年におけるコジェネレーション設備による発電及び廃熱の回収	6
過去3年における紙使用量	7
過去3年における産業廃棄物排出量	7
グリーン購入の状況	8
[環境配慮への取り組み]	
自然エネルギー大学リーグ	9
カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリッション	9
学生団体の活動“たふえね”	10
電力の見える化	10
照明器具による省エネルギー対策	11
高効率空調機による省エネルギー対策	12
太陽光発電設備による省エネルギー対策	13



TOP MESSAGE

東京外国語大学は、建学から150年にわたり、世界の言語と文化、そして世界諸地域のさまざまな問題について、教育と研究を行ってきました。21世紀の現在、本学の使命は地球社会における人々の共生に貢献することにあると考えております。本学が担っている世界の言語・文化・社会に関する教育研究を共生社会の未来に役立てるため、地球的課題に取り組むことのできる人材の育成や文化の差異と共生の仕組みを明らかにする研究などを通じ、異なる背景をもつ人々の共生に向けた方策の実装に力を尽くしてまいりたいと思います。

地球温暖化は世界的な環境問題として深刻化し、中長期的な観点から継続的に取組んで行かなければならない課題の一つです。温暖化に伴う気候変動や海面上昇、自然災害の激化、農作物の不作、疫病の蔓延などあらゆる問題は、私たちの健康や生活、社会活動などに大きく影響をもたらしています。

政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。現在、世界の多くの国、地域でもカーボンニュートラルの実現を表明しており、その達成に向けて、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化などさまざまな取り組みを行っております。

本学としても、環境問題の解決に貢献することは、本学が使命として掲げる人々の共生や地球的課題への取り組みにもつながると考えております。その一環として、「自然エネルギー大学リーグ」や「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」への参画、「教職員・学生と協働で地球温暖対策を推進し、大学が使う全ての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力へ転換（生産又は調達）することを目指す。」ことを宣言するなど様々な取り組みを行ってまいりました。さらに2022年春には、環境問題に関し活動する学生団体も立上り活発な活動を行っております。

これからも、省エネルギー・創エネルギー対策や環境負荷低減活動を教職員・学生ともに取り組み、カーボンニュートラル達成に向け努めていきたいと考えております。

本学の環境活動について、これからも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国立大学法人 東京外国語大学
学長 林 佳世子

大学概要

■東京外国語大学のミッション

多文化共生に寄与する東京外国語大学

東京外国語大学は長きにわたり、世界の言語とそれを基底とする文化、世界諸地域や国際的な問題について、研究と教育を行ってきました。令和5年11月に建学150周年を迎えるにあたり、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点として、その役割をさらに明確にします。多言語多文化化する日本と世界で、人々の共生に寄与する人材、そして地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指します。また、大学として、共生社会の実現に向けた社会貢献事業に取り組めます。

■学生数（2022年5月現在）

学部在籍者数

学部	1年	2年	3年	4年	総計
言語文化学部	359	352	375	544	1630
国際社会学部	342	366	382	564	1654
国際日本学部	82	87	81	72	322
計	783	805	838	1180	3606

大学院在籍者数

大学院総合国際学研究科	1年	2年	3年	計
博士前期課程	147	178	-	325
博士後期課程	39	41	133	213
計	186	219	133	538

■教職員数（2022年5月現在）

役員等	9名	
教員	246名	(役員 5名含む)
職員	135名	
計	384名	

■建物一覧

No	建物名称	建物構造	延床面積 (㎡)	完成年
1	研究講義棟	RC8-1	27,940	2000
2	附属図書館	RC4	6,820	2000
3	大学会館	RC2	2,770	2000
4	保健管理センター	RC1	458	2000
5	車庫	RC1	107	2000
6	屋内運動場	S1+RC5-1	5,720	2001
7	アジア・アフリカ言語文化研究所	RC8	7,610	2001
8	本部管理棟	RC5-1	3,927	2002
9	弓道場	RC1	198	2002
10	器具庫	RC1	240	2002
11	留学生日本語研究センター	SRC6-1	5,510	2003
12	国際交流会館 (1号館)	RC7-1	3,270	2004
13	国際交流会館 (2号館)	RC6	2,798	2006
14	アゴラ・グローバル	RC3	2,949	2010
15	国際交流会館 (3号館)	RC8	5,045	2013

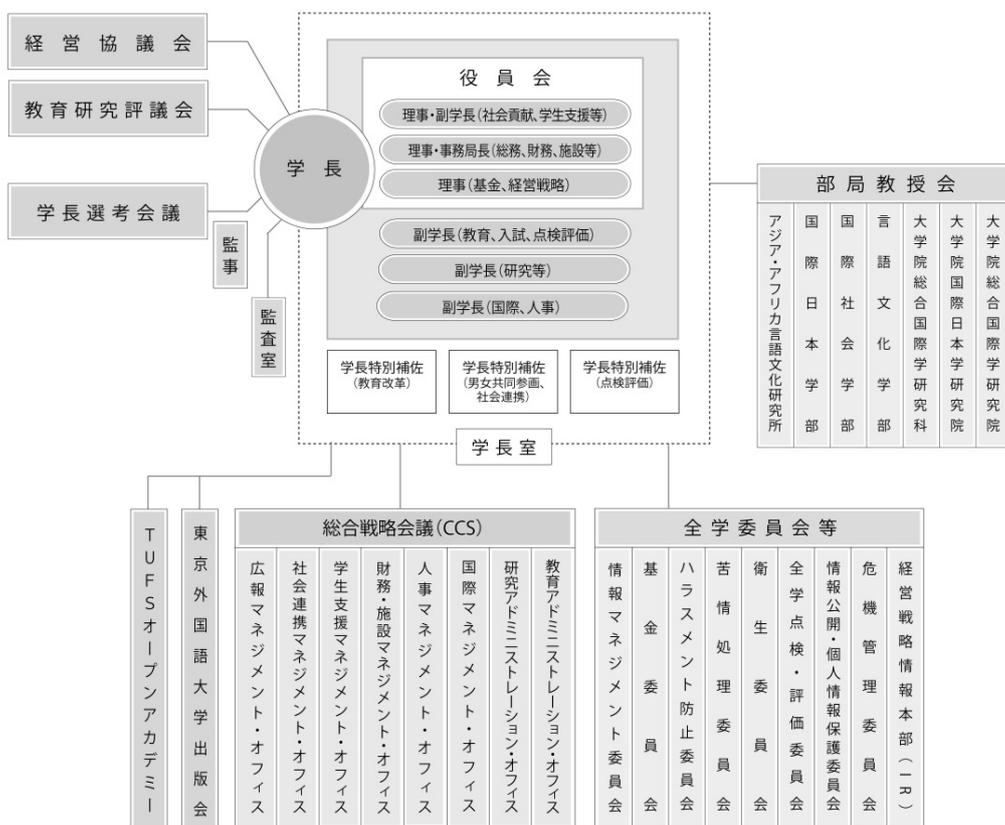
大学概要

■ 教育研究組織

言語文化学部	School of Language and Culture Studies	
国際社会学部	School of International and Area Studies	
国際日本学部	School of Japan Studies	
総合国際学研究所	Graduate School of Global Studies	
博士前期課程 Master's Programs	世界言語社会専攻	Global Studies Program
	国際日本専攻	Japan Studies Program
博士後期課程 Doctoral Programs	世界言語社会専攻	Global Studies Doctoral Program
	国際日本専攻	Japan Studies Doctoral Program
	共同サステイナビリティ研究専攻	Joint Doctoral Program for Sustainability Research
総合国際学研究院	Institute of Global Studies	
国際日本学研究院	Institute of Japan Studies	
アジア・アフリカ言語文化研究所	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	
	情報資源利用研究センター	Information Resources Center
	フィールドサイエンス研究企画センター	Field Science Center
TUFSフィールドサイエンスcommons (10月設置予定)	TUFS Field Science Commons	
世界言語社会教育センター	World Language Center	
留学生日本語教育センター	Japanese Language Center for International Students	
附属図書館	Library	
健康管理センター	Health Care Center	
総合情報コラボレーションセンター	Information Collaboration Center	
グローバル・キャリア・センター	Global Career Center	

ワールド・ランゲージ・センター	World Language Center
LINGUAテストセンター	LINGUA Test Center
英語学習支援センター	English Learning Center
CEFR-J推進室	CEFR-J Office
留学支援共同利用センター	TUFS Student Mobility Center
教育情報化支援センター	Multimedia and Computer-Aided Education Support Center
教育情報化支援室	Educational Information Support Office
オンライン教育支援室	Online Learning Support Team
アカデミック・サポート・センター	TUFS Academic Support Center
国際メディア情報センター	TUFS Media Center
語学研究所	Institute of Language Research
総合文化研究所	Institute of Transcultural Studies
海外事情研究所	Institute for Global Area Studies
国際関係研究所	Institute of International Relations
国際日本研究センター	International Center for Japanese Studies
現代アフリカ地域研究センター	African Studies Center
南アジア研究センター	South Asia Studies Center
学際研究共創センター	Center for Transdisciplinary Research Networking and Dialogue
多言語多文化共生センター	Center for Intercultural Studies

■ 運営組織



環境パフォーマンス

■過去5年におけるエネルギー使用量

本学は2008年度まで東京都環境確保条例に定められる大規模事業所(※)の指定を受け、CO₂排出の総量削減義務が生じていました。その後エネルギー使用量が条例の基準を下回ったことから、2009年には大規模事業所の指定が解除され、その後は横ばい状態にあります。使用しているエネルギー種別は電力・都市ガスとなっており、2021年度のエネルギー使用量は2019年度よりは低い数値となっておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う対面授業の制限が緩和されたため、エネルギー使用量が前年度に比べて高い数値となりました。

※大規模事業所：原油換算した使用エネルギーが3か年度連続で1,500kl以上となる事業所

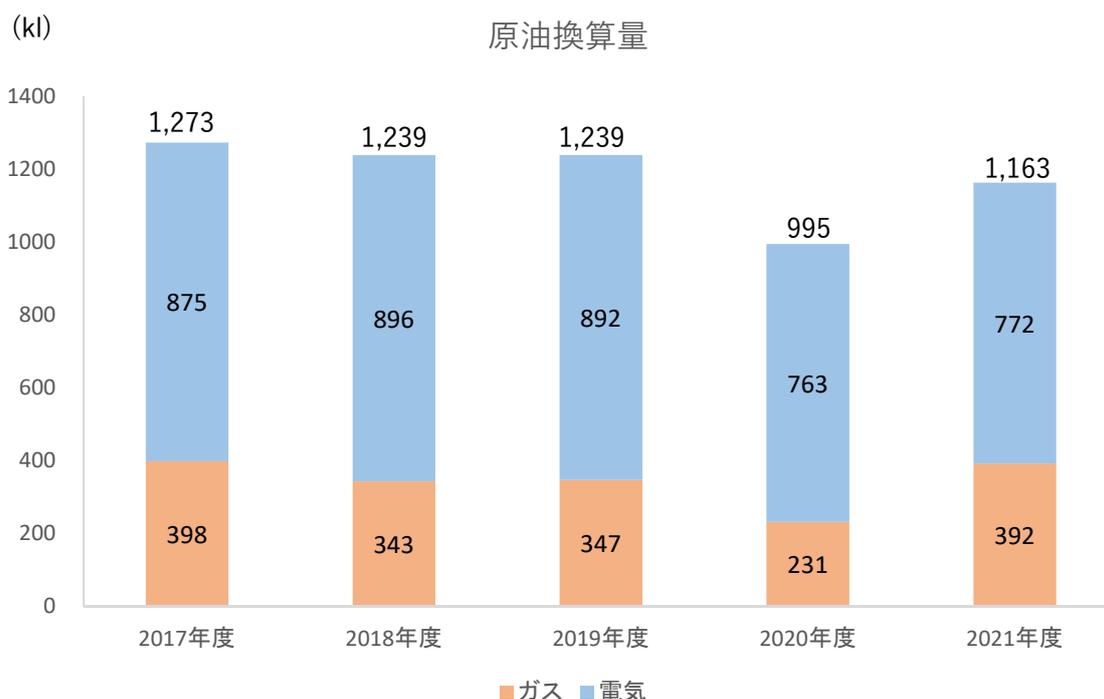
<エネルギー使用量の推移>

エネルギー種別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
電力 (kWh)	3,475,160	3,556,955	3,543,234	3,031,077	3,063,870
都市ガス (m ³)	342,941	295,518	398,883	199,373	337,560

<原油換算量>

(kl)

エネルギー種別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
電力	875	896	892	763	772
都市ガス	398	343	347	231	392
計	1,273	1,239	1,239	995	1,163



環境パフォーマンス

■過去5年における温室効果ガス排出量

東京都環境確保条例により大規模事業所となっていた2007年時点においては、3,079 t-CO₂の排出量がありましたが、直近5年においては(新型コロナウイルスの影響が及んだ2020年を除き)概ね2,300 t-CO₂前後にて推移しています。

<CO₂排出量の推移> (t-CO₂)

エネルギー種別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
電力	1,699	1,739	1,733	1,482	1,492
都市ガス	744	641	649	433	739
計	2,433	2,380	2,382	1,915	2,231

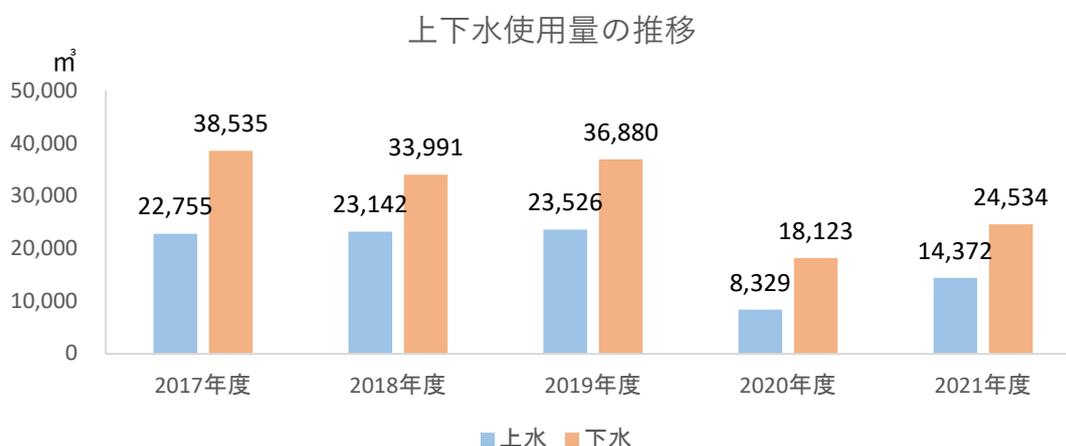


■過去5年における水道使用量

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う大学内での対面授業制限や食堂の利用制限などが緩和されたため、水道使用量も前年に比べ高い数値となりました。なお、雨水をトイレの洗浄水として再利用しているため、上水より下水使用量が多くなっています。

<上下水道使用量の推移>

種別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
上水 (m ³)	22,755	23,142	23,526	8,329	14,372
下水 (m ³)	38,535	33,991	36,880	18,123	24,534



環境パフォーマンス

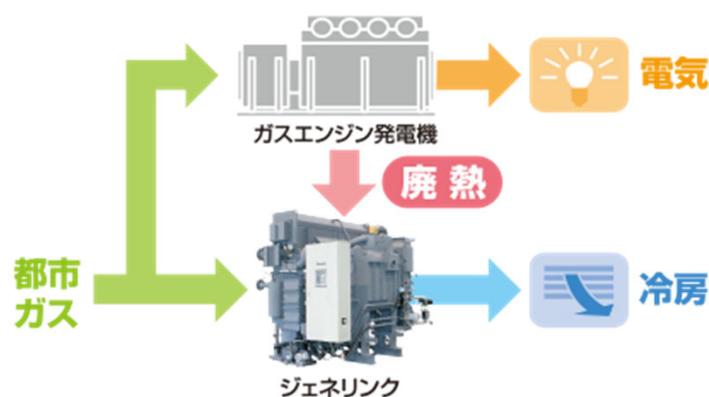
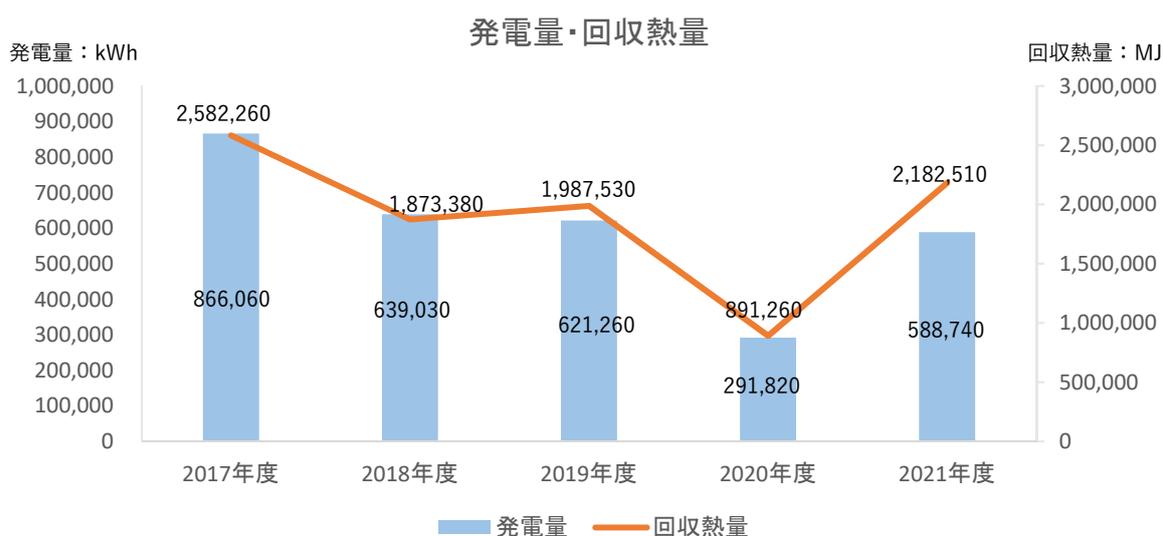
■過去5年におけるコジェネレーションシステムによる発電及び廃熱の回収

370kW(389kVA)の定格出力を有したガスエンジン式のパッケージ形常用発電機(×2台)が研究講義棟の地階に設置されており、発電時に発生する廃熱をガス焚きの吸収式冷温水発生機で利用して省エネを実現する、コジェネレーションシステムが冷暖房期に稼働しています。なお、コジェネレーションシステムによる過去5年における発電量及び回収熱量は以下のとおりです。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う大学内での対面授業が制限されたため、発電量や廃熱回収熱量は例年に比べて低い数値となりました。

<コジェネレーションシステムによる発電・廃熱回収実績>

エネルギー種別	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
電力(kWh)	866,060	639,030	621,260	291,820	588,740
回収熱量(MJ)	2,582,260	1,873,380	1,987,530	891,260	2,182,510



コジェネレーションシステム概要図

環境パフォーマンス

■過去3年における紙使用量

本学では古紙資源のリサイクルに貢献する「リサイクルPPC」を使用しています。
過去3年度の使用量は以下のとおりです。

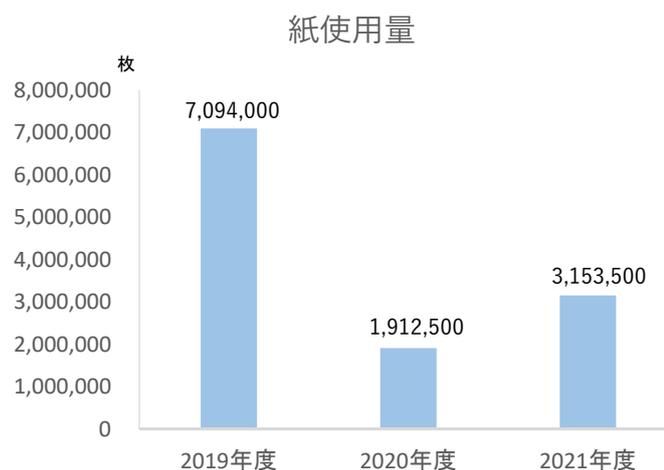
2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う在宅勤務等の影響により少なかった2020年度の使用量に比べて多い数値となりました。

<再リサイクルPPC用紙使用量の推移>

2019年度		
	箱数	枚数
A3	386	579,000
A4	2,411	6,027,500
B4	101	252,500
B5	94	235,000
計	2,992	7,094,000

2020年度		
	箱数	枚数
A3	55	82,500
A4	695	1,737,500
B4	11	27,500
B5	26	65,000
計	787	1,912,500

2021年度		
	箱数	枚数
A3	34	51,000
A4	1,169	2,922,500
B4	7	17,500
B5	65	162,500
計	1,275	3,153,500



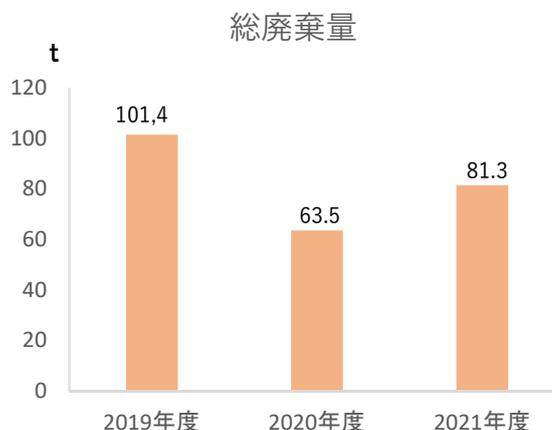
■過去3年における産業廃棄物排出量

過去3年度の産業廃棄物排出量は以下のとおりです。

紙使用量と同様に、2021年度は新型コロナウイルスの影響により少なかった2020年度の排出量に比べて多い数値となりました。

<産業廃棄物排出量の推移>

種別	2019年度	2020年度	2021年度
産業廃棄物 (t)	101.4	63.5	81.3



環境パフォーマンス

■ グリーン購入の状況

環境物品等の調達に当たって、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとし、環境物品等の判断基準を超えるものを調達すること、また、グリーン購入法適合品が存在しない場合についても、エコマーク等が表示され、環境保全に配慮されている物品を調達することについて配慮しました。

※グリーン購入法：国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律

国等の機関にグリーン購入（製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること）を義務付けるとともに、地方公共団体や事業者・国民にもグリーン購入に努めることを求めた法律。

< 令和3年度特定調達品目調達実績（物品） >

分野	① 目標値	② 総調達量	③ 特定調達物品等の調達量	④ 特定調達物品等の調達率 =③/②
紙類（kg）	100%	13857	13857	100%
文具類（個・冊・本・枚）	100%	36787	36787	100%
オフィス家具等（脚・個・台・連）	100%	399	399	100%
画像機器等（個・台）	100%	862	862	100%
電子計算機等（個・台）	100%	1274	1274	100%
オフィス機器等（個・台）	100%	1053	1053	100%
携帯電話等（台）	100%	2	2	100%
家電製品（台）	100%	183	183	100%
エアコンディショナー等（台）	100%	154	154	100%
照明（個・台・本）	100%	3404	3404	100%
消火器（本）	100%	91	91	100%
インテリア・寝装寝具（個・台・点・枚）	100%	2500	2500	100%
作業手袋（組）	100%	181	181	100%
設備（kW・台・㎡）	100%	31	31	100%
災害備蓄用品（個・本）	100%	24	24	100%
役務（件）	100%	424	424	100%
ごみ袋等（枚）	100%	13310	13310	100%

■ 令和3年度における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要
http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/kankyohairyo_r3.pdf

■ 令和2年度における環境物品等の調達実績の概要
http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/public_info/chotatsu_gaiyo_r2.pdf

環境配慮への取り組み

■自然エネルギー大学リーグ

2021年6月に自然エネルギー100%のRE100大学を目標とした「自然エネルギー大学リーグ」が設立し、本学林佳世子学長が世話人として参画されています。大学としても本リーグへ入会し、カーボンニュートラルに向けた目標として「教職員・学生と協働で地球温暖化対策を推進し、大学が使う全ての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力へ転換（生産又は調達）することを目指す」ことを定めています。

また、2021年7月には2021年度春学期・世界教養プログラム「環境・エネルギー問題の動向と展望」（担当講師：浜島直子 千葉商科大学准教授）を履修した学部学生5名が、林学長と環境問題に対して本学が貢献できることについて懇談しました。懇談には、本授業の浜島直子講師及び施設企画課職員も同席しました。懇談会では、カーボン・ニュートラル達成に向けた大学のキャンパス内で可能な取組み等について、意見交換が行われました。

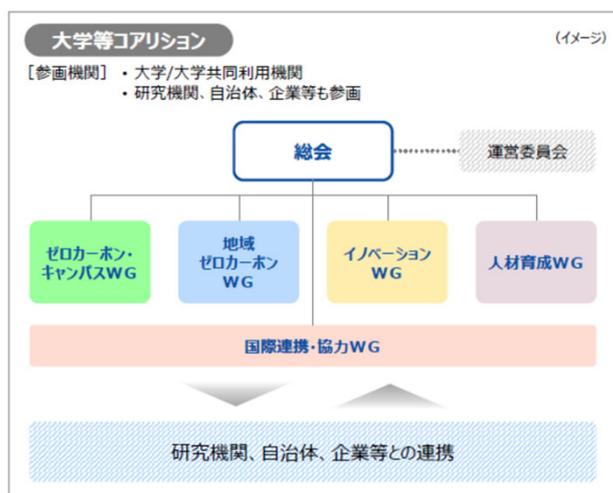


自然エネルギー大学リーグ
RENEWABLE ENERGY UNIVERSITY LEAGUE of JAPAN

自然エネルギー大学リーグロゴ
(自然エネルギー大学リーグHPより)

■カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション

2021年7月に、大学や研究機関が国、自治体、企業、国内外の大学等と連携強化を通じ、カーボンニュートラルの実現に向けた機能や発信力を高める場として、文部科学省、経済産業省、環境省の3省による「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が設立されました。約200の大学等が参加しており、5つのワーキンググループ（ゼロカーボン・キャンパスワーキング、地域ゼロカーボンワーキング、イノベーションワーキング、人材育成ワーキング、国際連携・協力ワーキング）において、カーボンニュートラルに向けた大学の貢献に関する議論と実践に取り組まれています。本学においてはゼロカーボン・キャンパスワーキンググループへ参画しており、ワーキングや総会、シンポジウム等へ参加し、カーボンニュートラルへの情報を得ながら本学の取組へと繋がられるよう努めている。



(カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション資料より)



環境配慮への取り組み

■ 学生団体の活動“たふえね”

- ・ 本学、教養科目の一つである「環境・エネルギー問題の動向と展望」を2021年春学期に受講した学生のうち、環境問題や省エネ・再エネに関し活動すべく、有志を中心に学生団体“たふえね”が立ち上がり、大学の正式なサークルとして2022年春頃に大学へ申請し承認されました。自然エネルギー大学リーグへの学生会員への入会・参加や他大学学生との情報交換、また、教室の照明消灯を促すステッカーを自らデザインを考え作成するなど、積極的な活動を行っています。引き続き活動の輪を広げ、本学約4,300人の学生へも波及していくことで、省エネに対する意識や環境問題への取組みが全学的に進められることが期待できます。



“たふえね”により
デザイン・作成されたステッカー

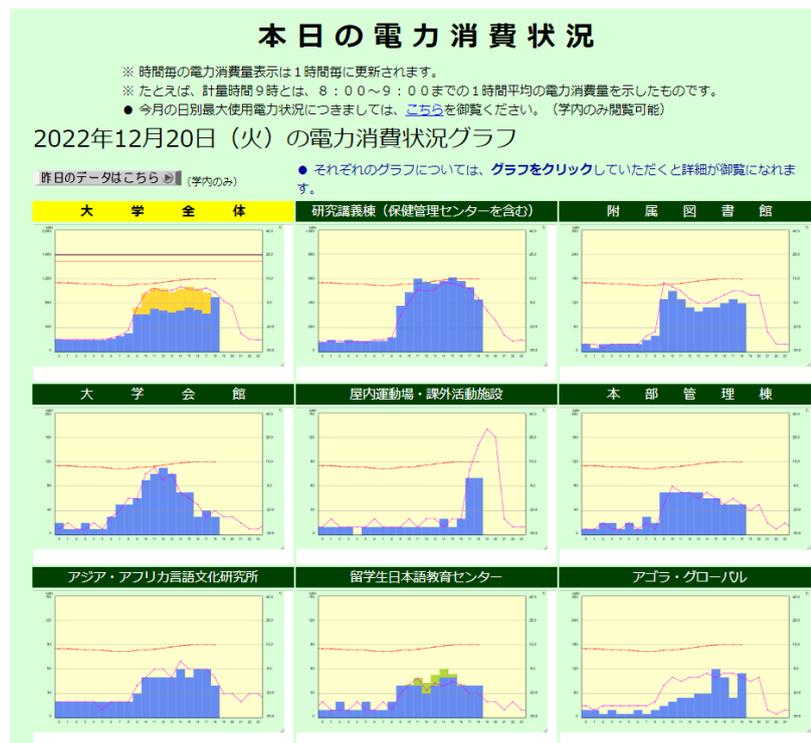


円形広場における打ち水イベント

■ 電力の見える化

- ・ 下記のURLに当日の電力消費状況がグラフ化されており、使用電力の把握と節電意識を啓蒙している。

http://www.tufs.ac.jp/common/is/shisetsu/denki_demand/demand_day_index1.html

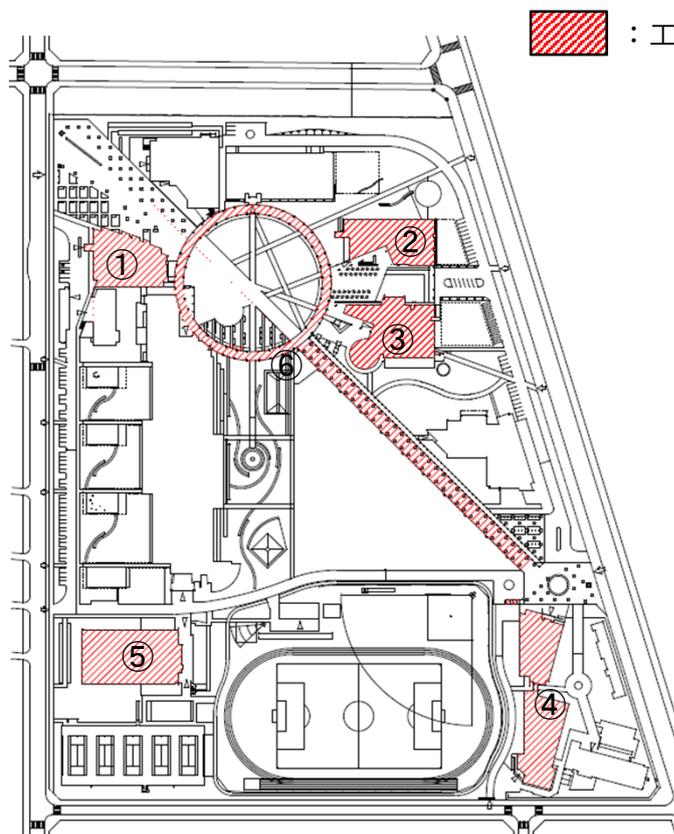


環境配慮への取り組み

■ 施設整備における省エネルギー対策

① 照明器具による省エネルギー対策

省エネルギー対策として、電気使用量の削減が見込まれる照明器具のLED化を計画的に整備しています。なお、2021年度は3,404台の照明器具をLED化しました。



■ : 工事実施箇所



留日センター照明LED化



本部管理棟照明LED化

<令和3年度の照明器具LED化と電力削減率>

	令和3年度に改修した建物	LED化した台数	棟別照明電力削減率
①	本部管理棟	726台	49%
②	アジア・アフリカ言語文化研究所	492台	61.2%
③	留学生日本語教育センター	751台	53.8%
④	国際交流会館1号館・2号館	265台・274台	50.1%・55.6%
⑤	屋内運動場	779台	61.9%
⑥	回廊・プロムナード	117台	57.4%

※: 器具当たりの削減率

環境配慮への取り組み

②高効率空調機等の導入による省エネルギー対策

- ・ 工事箇所：研究講義棟他

研究講義棟及び本部管理棟のサーバー室空調機について、老朽化に伴う故障頻発を踏まえ、更新において高効率の空調機に改修することにより、省エネルギー化を図るとともにサーバへの影響も改善されました。



研究講義棟屋内機

- ・ 工事箇所：保健管理センター

保健管理センター空調機について、老朽化に伴う故障頻発を踏まえ、更新において高効率の空調機に改修することにより省エネルギー化を図りました。



保健管理センター屋外機



保健管理センター屋内機

- ・ 工事箇所：AA研究所

AA研究所の2階及び3階の大会議室空調機について、老朽化に伴う故障頻発を踏まえ、更新において高効率の空調機に改修することにより省エネルギー化を図りました。



AA研究所屋内機

環境配慮への取り組み

③太陽光発電設備による省エネルギー対策

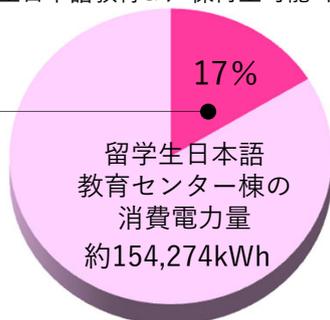
地球温暖化対策として太陽光発電設備を2015年度と2021年度にそれぞれ新設しています。(発電出力：30kW×2ヶ所)
 なお、2023年度にも40kWの発電出力を有する太陽光発電設備をアゴラ・グローバルに新設する予定です。

・設置済み箇所

- ①留学生日本語教育センター棟屋上(2015年度設置)
- ②附属図書館屋上(2021年度設置)

～2021年度留学生日本語教育センター棟再生可能エネルギー利用率～

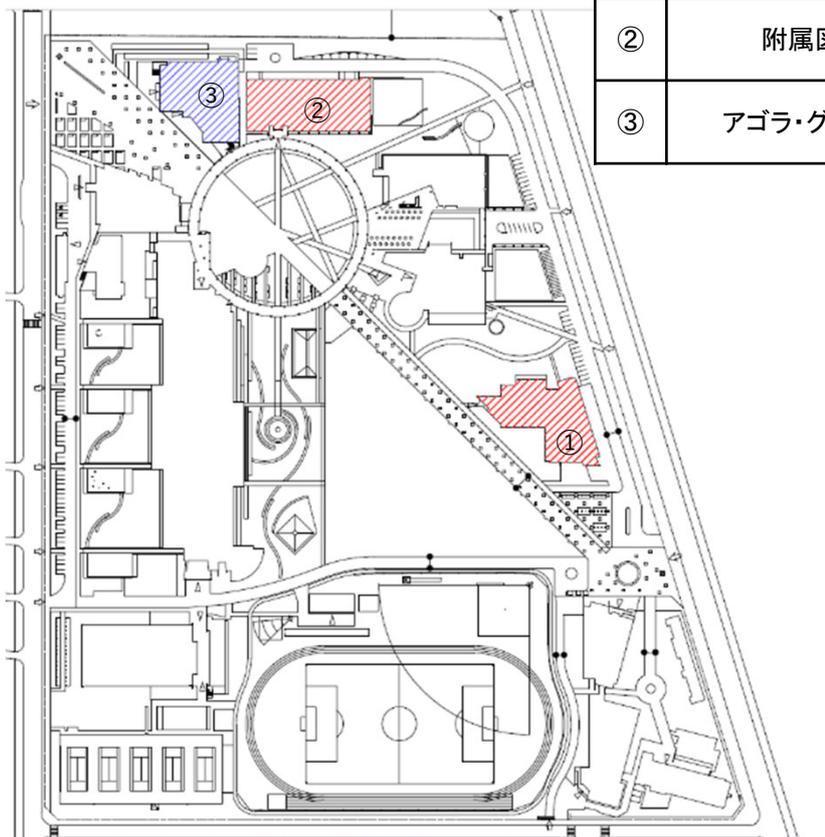
2021年度
25,986kWh



 稼働設備

 予定設備

～太陽光発電設備配置図～



留日センター棟屋上太陽光発電設備



大学会館1階ホールモニター

	設置場所	稼働年度 (計画含む)	発電出力
①	留学生日本語教育センター棟	2015	30kW
②	附属図書館	2022 (3月)	30kW
③	アゴラ・グローバル	2023 (11月予定)	30kW



附属図書館屋上太陽光発電設備



附属図書館太陽光発電モニター



本報告書の対象範囲

- ・ 報告対象組織 国立大学法人 東京外国語大学
- ・ 報告対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日

東京外国語大学 2022年度版 環境報告書
発行年月 令和5年（2023年）2月
問い合わせ先 国立大学法人東京外国語大学 総務企画部 施設企画課
TEL 042-330-5141 FAX 042-330-5420
Eメール shisetsukikakuka@tufs.ac.jp
大学ホームページ <http://www.tufs.ac.jp/>